



発行所
カトリック鹿児島教区報社
鹿児島市上町唐湊1685
(電話 ④-1670)

信仰の年開幕

司教団、共同教書発表

ことは、初代カトリック教会における二本の偉大な柱、使徒ペトロ、聖パウロに殉じて九百年にあたる。聖ペトロは、いうまでもなく主キリストから「汝はペトロ(岩の意味)である。われこの岩の上にわが教会を建てよう」といわれ、第一代の教皇となった使徒である。聖パウロは、はじめ初代教会の迫害者であったが、のち回心して主の御名を当時の世界の果てまでもたらした異邦人の教師といわれる偉大な使徒である。使徒ペトロの後継者であるパウロ六世教皇は、公会議後二年目にあたることし、両使徒の祝日である六月二十九日から一年間を信仰の年と決定され、日本司教団は、信徒に対し、信仰の年の意義をのべ、心構えを説き、併せて信徒使徒職をすすめる共同教書を発表した。

ミサ中、教皇は次のように述べられた。
「ペトロとパウロは、信仰の最初の教師である。かれらの使徒職の労苦と、耐えたる苦しみによって、わたしたちにその最初の拡張と最初の方式と最初の真正さとを与えた。……」

司教共同教書 第三回信徒使徒職世界大会を 近に控え、聖ペトロ、聖パウロ 殉教一九〇〇年記念に際して

親愛なる全国の司教、修道者ならびに信徒のみならず、初代使徒のみなさん、聖ペトロと、宣教師の使徒職の生活に生かし、人々の前にあかしする信徒の苦勞は、希望と喜びにささげられていたものであります。この一年を「信仰の年」として祝うよう呼びかけられました。この記念すべき年に際し、わたしたち日本の全司教は、心を一にして、みなさんにあかしと祝福を送ります。福音がまた一粒の麦としてとどまっている世界は偉大な豊かにみちているが、なお信仰の知らせを切実に求め、且つ必要としているのである。

わたたくしは、わたしたちの信仰が、全世界の繁栄、兄弟愛、平和のために必要であることを確信している。現在存在する戦争の正当な克服ということが、わたしたちの、また全教会の切実な

問題であることを知ってほしい……」
なお、日本司教団の共同教書は次のようである。

この日、六月二十九日、ローマでは、パチカン聖ペトロ大聖堂前広場で、この日から発効された典章憲章実施の新しい指針にもとづいて、パウロ教皇は二十四人の新枢機卿と共同司式の盛儀をなさげ、信仰宣言が行われ、信仰の年の開幕がつけられた。

パウロ教皇トルコ訪問

感動的な、ア総主教との再会

パウロ六世教皇は、七月二日トルコを訪問、エフエソやインスタンブルの古代の教会を巡視し、アテナゴラス総主教と歴史的会見をされた。ローマの教皇のトルコ訪問は千二百年ぶり、カトリック教会から正教会がはなれてから九百年になる。

会見後、教皇は次のように語られた。
「人類の救いの秘跡」である教会は、さらに全人類の永遠の救いをめざし、地上の平和と開発のためあらゆる分野で貢献する使命を帯びていくことを自覚しました。

「人類の救いの秘跡」である教会は、さらに全人類の永遠の救いをめざし、地上の平和と開発のためあらゆる分野で貢献する使命を帯びていくことを自覚しました。

このようにキリストに對する愛と兄弟的な愛の光を、回顧するとき、私たちはもともと私たちの信仰に對する深い一致を発見すべきです。私たちは異にして、教父たちはこの四つの公會議を、四つの聖福音書と比較して、同時に、当時の全キリスト教世界から教父たちが集まり出会った歴史的な地です。

こうしてみると、再び教皇の一致を望みます。主こそ、この一致を望みます。主こそ、この一致を望みます。主こそ、この一致を望みます。

主こそ、この一致を望みます。主こそ、この一致を望みます。主こそ、この一致を望みます。主こそ、この一致を望みます。

主こそ、この一致を望みます。主こそ、この一致を望みます。主こそ、この一致を望みます。主こそ、この一致を望みます。

第二回鹿児島教区 カトリック教師の会

昨年八月に発足した鹿児島教区カトリック教師の会の第二回総会と研修会が、さる八月十日から三日間鹿児島純心短大四階の教室で行われた出席者は修道者を含めて約六〇名、今回は宿泊を原則として計画され、朝の黙想、ミサ拝聴などおこまけ懇話会もかねて行われた。

第一日は、七田和三郎司教の講話に始まり、川内純心高校の前、校長糸永ミサ修女(47)は、パンチ氏のため八月十八日午前一時帰天、十九日九時、から学校葬が行われた。(葬儀のようは次号)

第二日は上智大学副学長

東京と福岡で 聖ペトロ、聖パウロ 千九百年記念式典

本教区では今秋ひらかれる予定

東京大司教区では、七月二日午後六時より、同教区カテドラル聖マリア大聖堂において、ききにパウロ教皇が書簡をもって本年六月二十九日より一カ年間を、使徒聖ペトロ、聖パウロ殉教九百年を記念する信仰再確認の年と定められ、たてこに於いて記念式典を挙行した。

式典の第一部は土井枢機卿と共に、四十名の司教の共同ミサ。ミサ中、白柳補佐司教は、教皇様のご要請にこたえて、この一年間、わたしたちは神の賜物を感謝すると共に、互いに協力して、

神の福音を述べ伝える年となしなればならぬ。そこで、心からお願ひしたいことは、二人の使徒にならうて使徒職を希望し、一人の信者がそれぞれ一人を教会にみちびくよう努めてほしい。

と述べ、次いで信仰宣言が唱えられ、第二節で共同祈願と決意宣言が信者によってなされた。

福岡では、使徒の祝日の前、六月十一日福岡雙葉学園で二千名の信者が集まって行われ、午後は信徒大会が行われた。

教令だより

信者数八七二一名

聖心教会は千名をこす

四二年度の教勢

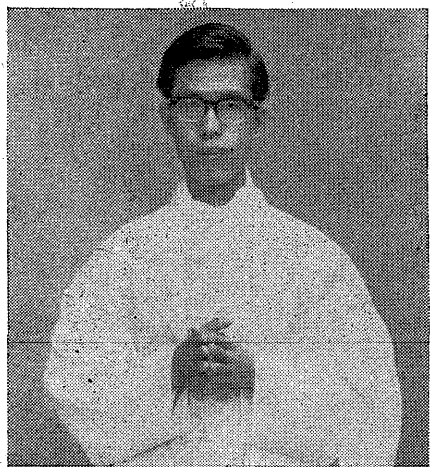
このたび発表された六月三十日現在四二年度の本教区教勢を別表で示す。信者数は八七二一名。昨年より二九名減少。理由は色々あるが、別表に記載してないぶん、各小教区における転入者の総計一九一名に対して、同じく転出者が四九五名あることから、約三百名が他教区に仕事などの都合で出てくる。これは主に青年層に多い。転出転入を連絡してない理由もある。因みに昨年度の信者数の増加は二九二名、(洗礼数は大人幼児昨年度五二九名、本年度三九〇名)であることから、やや伸びやみを示している。この一年間に教会の新建築は川内教会が近代的な聖堂が落成。鹿児島県教会が二階建鉄筋コンクリートづくりで近く落成する。幼稚

教区の様子

今年三人目の新司祭

ザビエル教会で叙階式

去る七月九日(日)、午前十時三十分より、鹿児島市ザビエル教会で、里脇司教様司式のもとに、本教区



の竹山昭昭の司祭叙階式が行われた。当日は暑さにもかかわらず二十名ほどの教区並びに修道士の司祭団が内陣を埋め、修道士、信徒多数で聖堂はほぼいっぱいになった。新司祭の親族はじめ参列者は七田善師の解説に耳を傾けながら、新司祭の誕生を神に感謝しつつ熱心に見守っていたが、成相美島司祭について今年三人目の教区司祭の叙階式だけに一同深い喜びを味わっていた。尚、竹山師は九月から再び東京の大神学校に戻り、来春三月の卒業まで勉強を続けられる。竹山師は長崎教区の司祭である。

昭和42年度 鹿児島司教区教勢 信者数 8,721

教	会	洗礼				求道者	信者総数	
		大人	幼児	臨終時	その他		1966	1967
鹿児島	照鴨指谷	11	14	5		45	646	644
		12	13	2		132	687	686
		2	1	1		5	47	54
		13	7			20	232	239
大隅地区	垂鹿	1	1	1		3	46	46
		29	14			55	17	19
						10	222	234
							14	10
薩摩地区	加枕出	18	2			5	103	105
	大川	11	7			16	43	23
		9	1			24	244	233
		3	3			19	19	40
			6			15	303	207
			3			39	320	297
徳之島地区	母	4	1	1		1	76	63
			6			2	70	62
			3				80	100
			2				66	69
			4				59	56
			2				92	98
			4				75	66
			3				258	254
			8				47	41
			3				43	42
							123	101
			5			3	106	99
			1			5		
大島地区	名瀬	40	37	4		25	973	102
	知	9	15	3		10	724	734
			1	1			63	64
			7			4	49	15
			3			1	277	287
			1			2	106	103
			1			5	118	108
			4			2	38	40
			2			3	206	195
			4			3	26	27
			2			1	22	23
			1			2	114	120
			6			2	96	96
			2			2	110	105
			1			2	171	169
			1			3	137	119
			1			2	58	78
			1			2	93	93
			1			4	64	75
			1			2	67	57
			3			3	86	81
						3	88	86
						5	542	552
						6	58	56
						1	19	19
						2	74	74
						5	48	48
						6	75	67
						2	138	116
							11	11
合	計	203	187	44		496	8,850	8,721

レデンプトル会	一(二二)
フランシスコ	五(八)
コンヴェンツアル会	五(八)
ザベリオ会	八(七)
神学生	五
大神学生	八
小神学生	一五五
修道士	五(九)
男子	一四〇(一四)
女子	一四〇(一四)
レデンプトル会	一(二)
フランシスコ・コンヴェンツアル会	二(二)
ラサール会	二(七)
善き牧者会	三(五)
カノサ会	四(四)
幼きイエズス会	二(一)
聖心愛子会	二(一)
純心聖母会	五〇
カリタス会	二八
クリストア会	六(二)
ミッシェン・スウェーデン	三(三)
伝道士	八、七二二
伝道婦	五〇三
教会	二六
司祭在任	二六

徳之島下久志に 教会の鐘

信者の手でつくる



リスマスから同地区の上田タフさん宅を仮布教所として布教がはじまり、はじめて母間教会のミサにあづかっていたが、六四年聖ニコラオ教会が落成した。ところが信者が多くなったため最近教会が増築されたが、その上には、鐘がほしい。しかし鐘は信者の手でつくるというところになって出来上ったものである。祝別は谷山からミタマヤ地区長が来島して行った。ミタマヤ師は、その際、次近教会が増築されたが、その上には、鐘がほしい。しかし鐘は信者の手でつくるというところになって出来上ったものである。祝別は谷山からミタマヤ地区長が来島して行った。ミタマヤ師は、その際、次

レデンプトル会司祭消息

マイエル神父

七月末、脳溢血のため霧島大病院に入院。病氣は軽度のものであるが、現在安静中。

ハヌス神父

大口教会のハヌス神父は、七月はじめ休暇のため帰郷。

ヤロシユ神父

東京レデンプトル神学校から五月かえり、現在大口教会。

前加世田教会の ペトロ神父

三月に逝去

戦前本教区で布教していたカナダ、フランシスコ修道会のペトロ・バプテスタ・シャルボ神父は、さる三月十四日群馬県の佐野カトリック教会で、うつ血性不全気管支喘息のため六十六才で逝去した。

純心修道会の 着衣と誓願

八月二十八日、長崎純心聖母会聖堂で、山口大司教司式の下に、十六名の修女が初誓願、十六名が着衣する。着衣者の中には、鴨池教会出身の青野佳代子、朝トク江さんほか川内純心会の田代幸子、中村フサ子、松崎ヒロ子、尾上ミエ子さんがおり、初誓願者には同じく松永リツ子、尾下サヨ子、中村百合子、浦田孝子さん、鹿児島純心の山頭郁子、福田敏子さんたちが含まれている。

聖体礼拝に関する指針

八月十五日から発効する新しい聖体礼拝に関する広範な指針が、五月二十五日付で、パウロ教皇の認可のもとローマから発表された。

序文と三部からなるが、第一部では、教理を教える際に注意すべき一般原則について、次にその大要をのべてみよう。

序文

○聖体の秘蹟は聖なる典礼のまことの中心であり、実にキリスト教的な生活の生活のまことの中心である。

第二バチカン公会議では、この秘蹟についての重要ないくつかの点を強調している。典章憲章においては、その本質と重要性を想起して、信者がこの秘蹟に十分に積極的にあつかることができるようミサ聖祭の典礼をいくつかに改め、また両形式(御体と御血)の拝領ができるようにした。

教会憲章においては、この秘蹟と教会の秘蹟との緊密な関係の関係を強調し、他の教義で、信者の生活においてこの秘蹟の役割を強調した。

すべての被造物は、人間をとおして光栄ある御体と御血に変化すべきである。この秘蹟は人間の業、及びすべての被造物の本質をもつ真の意味を明らかにする力があることを教えている。

①人となった神の御子は、あがなれた人々を彼と一体ならしめ、彼らを己が死と復活をとおして、死に打ちかつことによつて新しい被造物にかえた。ただし(御子)は、彼の霊(聖霊)をおくることによつてあらゆる国々から集めた兄弟たちを己が神秘的な体となした。その体において、キリストの生命は信者に伝えられる。それは、聖体の秘蹟をとおして信者は一つになつて十字架にかかり復活したキリストへの神秘的かつ真の道に結合されるからである。

それ故、キリストは、最後の晩餐の時、彼の御体と御血の聖体のぎせいを制定し、彼の十字架のぎせいを彼が再び来臨するまで絶え間なくつづくものにしたのである。かくして彼は彼の浄配なる教会に彼の死と復活の記念、愛の秘蹟、一致の印、愛のきずな、キリストが食せられる復活の食事をのこし、信者の心は恵にみたまされ、未来の栄光の保証が与えられるのである。それ故に、主の晩餐、あるミサは、次のことと不可分である。

—十字架のぎせいが絶えずくりかえされるぎせい、の祭であること。

—「私の記念としてこれを行え」といわれた主の死と復活の記念であること。

—聖なる宴会、そこにおいて神の民は主の御体と御血の拝領により復活のいけにえの恩恵に与り、神がキリストの血により

第一部

聖体の秘蹟を教えるにあたって重要な一般原則

この秘蹟について教える司祭に要求される事柄

聖体の秘蹟は信者の心と生活の中により深く根ざすために適当な公教要理は必須である。

そのために司祭は、教会の諸文書に含まれる教義のすべてを記憶するのみならずその心と生活に、このことに関する教会の心を受け容れねばならない。序文にのべたことがらを想起しつつ、次に次の点を大切にしなければならぬ。

○聖体の秘蹟は教会の全生活の中心である

聖体秘蹟の要理は、信者が聖体秘蹟が全教会でも、その教会の地方的集りでも中心であることを理解するよう助けねばならない。何故なら、他の秘蹟は、教会のあらゆる聖職、使徒職などもひとしく、聖体に結びつけられ、これに向うのである。

ての教会の儀式なのである。ミサにおいて、キリストと一体になつて、聖霊のうちに、御父に御父が創造において、特に復活の秘蹟において人間に与えたい恩恵を感謝し、御父の王国の来ることを願うのである。

○このことからして、ミサというものは、いやど、純粋に個人的な行為ではありえない。己がめいめいの地位役目に従つて行為するところの、色々な人々よりなる社会として、ミサのその中で聖体に対し示される尊敬も、ミサの聖体の秘蹟に起元と完成をもっている。ミサのあとに残された祝せられたホスチアは、ミサの時に祝されたものというだけなく、それはミサにあづかることができなかった信者が、正しい意向をもつて聖体拝領することによつてキリストと、ミサのぎせいに一致することができるとともに保存されるのである。

○聖体の秘蹟は教会の全生活の中心である

聖体秘蹟の要理は、信者が聖体秘蹟が全教会でも、その教会の地方的集りでも中心であることを理解するよう助けねばならない。何故なら、他の秘蹟は、教会のあらゆる聖職、使徒職などもひとしく、聖体に結びつけられ、これに向うのである。

ての教会の儀式なのである。ミサにおいて、キリストと一体になつて、聖霊のうちに、御父に御父が創造において、特に復活の秘蹟において人間に与えたい恩恵を感謝し、御父の王国の来ることを願うのである。

○このことからして、ミサというものは、いやど、純粋に個人的な行為ではありえない。己がめいめいの地位役目に従つて行為するところの、色々な人々よりなる社会として、ミサのその中で聖体に対し示される尊敬も、ミサの聖体の秘蹟に起元と完成をもっている。ミサのあとに残された祝せられたホスチアは、ミサの時に祝されたものというだけなく、それはミサにあづかることができなかった信者が、正しい意向をもつて聖体拝領することによつてキリストと、ミサのぎせいに一致することができるとともに保存されるのである。

新しい民である。そこにおいて信者はキリストの言葉に集まり、主の食事(ミサ)があげられ、主の御体と御血をとおしてすべての兄弟たちが一致するものである。

司教あるいは司教のかわりに司祭の聖役のもとに祭壇のまわりに集ることは、神の秘蹟の愛と一致の印であり、これ以外には救いはありえない。これらの共同体は、どんなに小さく、貧しくても、そのうちにキリストが存在し、彼の力によつて、聖、公、使徒継承の教会が一致する。このように、キリストの御体と御血があづかることは、人を彼がうけるもの(キリスト)に変える力をもつからである。

○キリストの現存の種々の様式

キリストは、その御名により集る信者の団体の中に存在し給う。

キリストは、彼の言葉の中に存在し、教会で聖書が読まれる時、彼が語り給うからである。

ミサの聖体のぎせいに於いて、それを行う司祭の中に在す。しかしとりわけ、聖体の中に、独自の方法をもつて、神性も人性もすべてに全きキリストが実体的に永続的に現存される。

○御言葉の祭儀と聖体の祭儀との関係

司祭者は、それ故に、御言葉と聖体の両祭儀が如何に密接な関係があり、両者が一つの礼拝を形づくっているかを示して、信者がミサ全体に与るよう教えるべきである。

○信者の一般的司祭職と、聖体の祭儀を行う司祭の司祭職

典礼の集りにおいて信者がしめる場所とその役わりを十分に理解すればするほど、信者はより自覚して、より積極的に聖体の集りに参加するであろう。

故に信者が洗礼と聖信によつて己れをささげている王的司祭職についてよく説明すべきである。

更に、聖体の祭儀における聖役者の司祭職と、信者のその区別なども説明されねばならない。

○ミサに積極的なあづかるとはどういうことか

聖体の祭儀に参加する信者は、司祭と共に聖なる行いの自分の役割を果す聖なる身近かな大きな問題であるとは考えていません。信仰はたしかに、自由に受け入れられることを要求します。しかしこのためにこそ、慎重で勇気ある反省を求めるのです。自由を行使するということとは、それほど重要性のない遊びとはちがいます。人間の偉大さ、その運命を決定するものなのです。

研究し保ち祈れ

▽信仰に対する正しい評価と保護の義務を反省したあと、第二の義務は、この信仰への知識増加のための研究といふことです。この義務は信すべき真理について、また信するために、私たちに要求されている霊的、倫理的、心理的、道徳的發展があり、歴史があること

信仰は神の賜物

▽第一の義務は、信仰が神の大きな賜物、すばらしい賜物であることを考えることです。それはこの賜物が、私たちに与る神の愛の最初の印し、最初のおくりものだからです。神の愛はまず私たちに信仰への招きとして示されました。そのみことばは愛の表現です。それゆえ私たちが、もし神の真理の啓示に耳を傾けなければ、けつして神の救済を、この問題を非常に軽々しく、気まぐれに取扱ひ、

る民である。

パンとブドウ酒を聖別してキリストの代りを行うのは司祭一人であるが、主の受難、復活を想起し、神に感謝し、けがれないいけにえを司祭の手のみならず、司祭と共に自分たちもささげ主の御体を拝領して神との一致、相互の一致を完成するのは、信者の役割である。

キリストのぎせいに信仰と愛をもつて一致する者だけが、その実を得るのである。その実の大小は与る者の熱心さ如何によるのである。

○聖体の信者の日常生活に及ぼす影響

かくして信者は、天上の糧の力により喜びと感謝をもつて生活し、主の死と復活にあづかる。善を行ひ、神を喜ばすことに努めキリストの証人となり、世の中にキリストの精神をみせたいと思う。この生活の土台はミサと聖体である。

○子供たちにミサを教えること

子供たちに宗教をおしえたいと思う。この生活の土台はミサと聖体である。

とをよりよく理解しなければなりません。これは固定的な知識、一度にすべてを知りつくすような知識ではありません。それは「度掛け」の九九を学ぶが、またピタゴラスの計算表を手にもしながら漸次知るようなものです。

▽信仰は精神と心の力をもつて養われ、判断と忠実さをもつて内的生活全体をもつて養われるものです。信仰は辛抱強くつづけられ、祈ることです。信仰と祈りの関係は、細心の注意を払って研究されねばなりません。それによつてたしかに大きな喜びをもてることとて、主観的な信仰も生命であり、それ自体送るながら、勧めます。



に密接な関係があり、両者が一つの礼拝を形づくっているかを示して、信者がミサ全体に与るよう教えるべきである。

○信者の一般的司祭職と、聖体の祭儀を行う司祭の司祭職

典礼の集りにおいて信者がしめる場所とその役わりを十分に理解すればするほど、信者はより自覚して、より積極的に聖体の集りに参加するであろう。

故に信者が洗礼と聖信によつて己れをささげている王的司祭職についてよく説明すべきである。

更に、聖体の祭儀における聖役者の司祭職と、信者のその区別なども説明されねばならない。

○ミサに積極的なあづかるとはどういうことか

聖体の祭儀に参加する信者は、司祭と共に聖なる行いの自分の役割を果す聖なる身近かな大きな問題であるとは考えていません。信仰はたしかに、自由に受け入れられることを要求します。しかしこのためにこそ、慎重で勇気ある反省を求めるのです。自由を行使するということとは、それほど重要性のない遊びとはちがいます。人間の偉大さ、その運命を決定するものなのです。

研究し保ち祈れ

▽信仰に対する正しい評価と保護の義務を反省したあと、第二の義務は、この信仰への知識増加のための研究といふことです。この義務は信すべき真理について、また信するために、私たちに要求されている霊的、倫理的、心理的、道徳的發展があり、歴史があること

